

各関係機関団体の長

殿

各病虫害防除員

福岡県病虫害防除所長

ストロビルリン系殺菌剤（QoI 剤）に対する感受性の低下したいもち病菌の発生について

このことについて、県内で発生が確認されましたので、次年度の防除対策の参考資料として活用願います。

技術情報第3号

**1 対象作物名 水稻**

**2 病虫害名 いもち病**

**3 発生状況**

- (1) 本年度、県内各地からいもち病罹病葉または罹病穂を採取し、分離したいもち病菌について、農業総合試験場病虫害部がストロビルリン系殺菌剤（以下、QoI剤）の遺伝子診断法による薬剤感受性検定を行った結果、71菌株中56菌株（78.9%）でQoI剤の感受性低下に関与する遺伝子の変異（遺伝子変異菌株）が認められた（表1）。
- (2) これら分離菌株の一部を用いて各種QoI剤について生物検定を行った結果、防除効果の低下が認められた（表2）。
- (3) これらの結果から、県内で発生した遺伝子変異菌株はQoI剤耐性菌と考えられる。

**4 QoI剤使用上の注意**

- (1) 県内各地でQoI剤耐性菌が確認されたため、次年度はいもち病に対するQoI剤の使用を中止し、他系統の薬剤を使用する。
- (2) 水稻においていもち病以外の病害を対象にQoI剤を使用する場合は以下の点に十分注意する。
  - ア QoI剤の使用は年1回までとする。
  - イ QoI剤を含む薬剤は連年使用しない。

**5 いもち病対策の基本的な考え方**

- (1) いもち病の発病苗や感染苗が本田に持ち込まれると、本田での伝染源になるため、適正な種子消毒や育苗期防除を徹底し、発病苗を本田に持ち込まない。
- (2) 本田での初発を見逃さないよう発生状況に注意し、発生を認めたら拡大させないように直ちに防除を行う。防除時期が遅れるほど効果は低くなるので注意する。
- (3) 既に葉いもちが発生しているほ場や周辺ほ場で発生している場合には、穂いもちの薬剤防除を行う。

具体的な防除対策は、県ホームページに掲載している『病虫害・雑草防除の手引き』を参考にする。 URL : <http://www.pref.fukuoka.lg.jp/d05/tebiki.html>

表1 QoI剤耐性いもち病菌の農林別発生状況（農総試調査）

農林	調査菌株数	発生菌株数	発生菌株率 (%)
福岡	10	0	0.0
朝倉	3	1	33.3
飯塚	41	40	97.6
筑後	5	3	60.0
八幡	12	12	100.0
行橋	—	—	—
県全体	71	56	78.9

注 行橋は本年度、菌株が採取できなかった

表2 各種QoI剤の本県産いもち病菌分離株に対する防除効果（農総試調査）

供試薬剤	処理量 ・ 濃度	供試菌株					
		現地採取菌株(A)		現地採取菌株(B)		農総試保存株 (対照)	
		病斑数 /30 苗	防除価	病斑数 /30 苗	防除価	病斑数 /30 苗	防除価
有効成分 メトミノスト ロビン	100ppm	23.3	30	16	35	0	100
嵐プリンスチェス箱粒剤 (有効成分 オリサスト ロビン)	50g/箱	21.3	36	15	39	0	100
アミスターエイト (有効成分 アゾキシス トロビン)	×1,000	28.7	14	17	31	0	100
[対照] ブラシンフロア ブル	×1,000	0.3	99	0	100	0	100
無処理	—	33.3	—	24.7	—	45.3	—

注 メトミノストロビン（オリブライイト等の有効成分）は原体を希釈し散布した。

(参考) 『平成25年度病害虫・雑草防除の手引き』に掲載しているQoI剤一覧

有効成分名	商品名
メトミノストロビン	オリブライイト1キロ粒剤、オリブライイトパック、 オリブライイト250G
	イモチエーススタークル粒剤
	オリザトップパック
オリサストロビン	嵐ダントツ箱粒剤、嵐プリンス箱粒剤10、 嵐プリンスアドマイヤー箱粒剤、嵐プリンスチェス箱粒剤、 嵐スタークル粒剤、嵐キラップ粒剤
アゾキシストロビン	アミスタープリンス粒剤、アミスターアドマイヤー箱粒剤、 アミスター粒剤15、アミスターアチーブトレボン粉剤DL